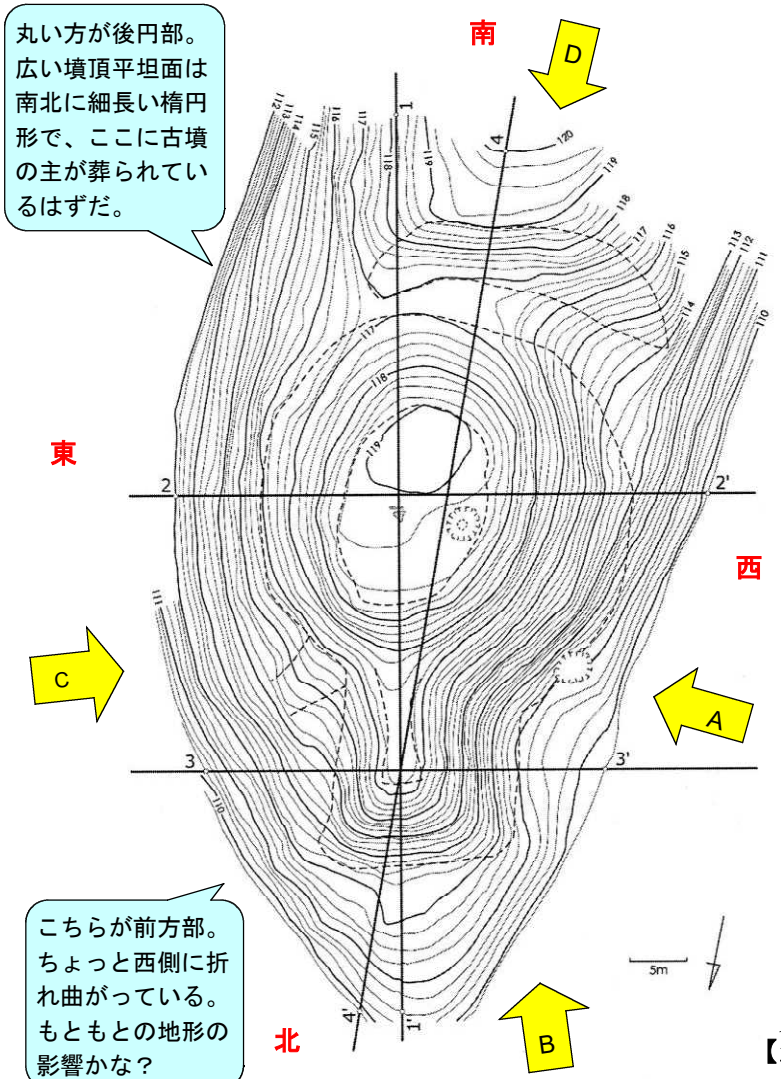
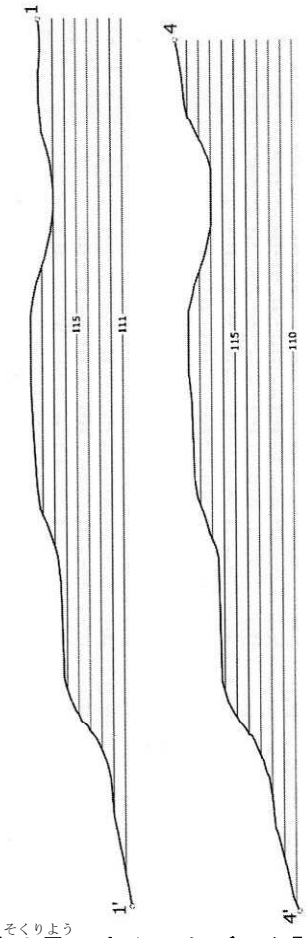
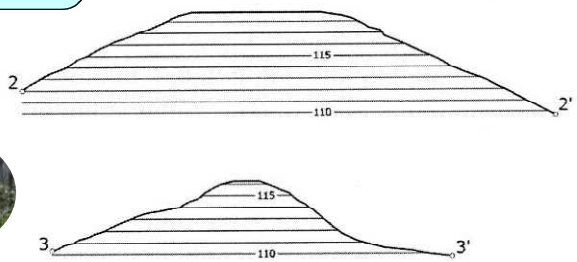
丸い方が後円部。広い墳頂平坦面は南北に細長い楕円形で、ここに古墳の主が葬られているはずだ。



こちらが前方部。ちょっと西側に折れ曲がっている。もともとの地形の影響かな？





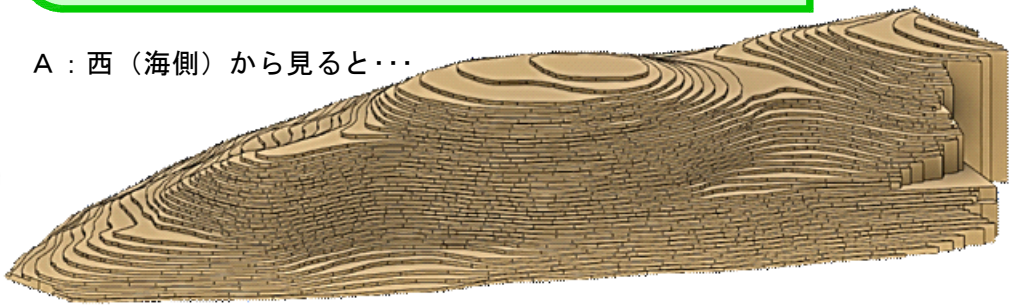
【角田浜妙光寺山古墳の平面図と断面図】

【測量でわかったデータ】

全長：約49m（県内第３位）
後円部径：約32m
前方部幅：20m
前方部長：17m
くびれ部幅：約20m
後円部高さ：約6m（海側）
前方部高さ：約4m
後円部墳頂平坦面は東西12m、南北19.5mの長楕円形

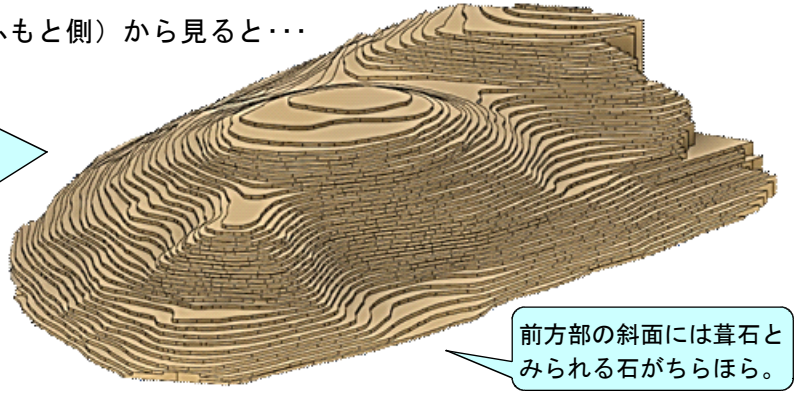
【鳥になって古墳を見てみよう！（古墳鳥瞰図）】

A：西（海側）から見ると･･･



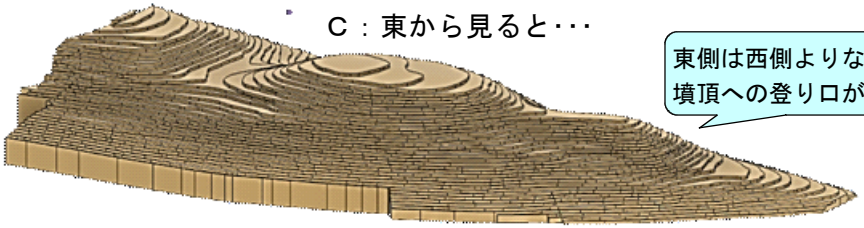
B：北西（ふもと側）から見ると･･･

ふもと側から見ると、西側（海側）の方が高くて急に見えますね。この古墳は海から見たときに立派に見えるように造られているようだ。



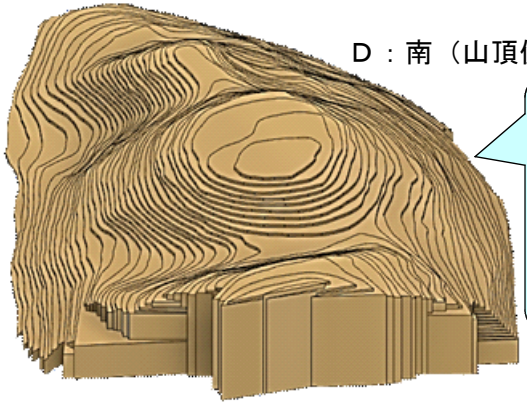
前方部の斜面には葺石とみられる石がちらほら。

C：東から見ると･･･



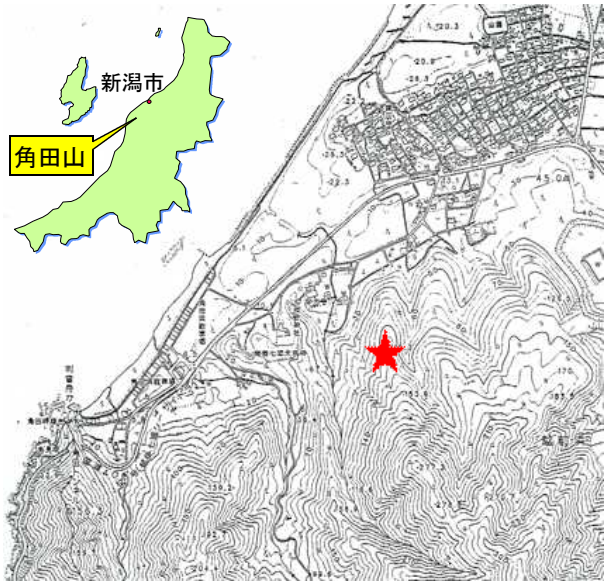
東側は西側よりなだらかだ。墳頂への登り口があるかも･･

D：南（山頂側）から見ると･･･



古墳は角田山頂から伸びる尾根の斜面を利用して造られている。斜面を掘り込んで堀を作り、その土を上にのせて後円部と前方部を高くしているようだ。
後円部のまん中付近に自然の大きな石がある。古墳時代のものかどうかは不明だ。

鳥瞰図作成：石崎悠人さん



古墳は新潟平野の西側海岸沿いにそびえる角田山麓にあります。これまで角田山麓の東側には多くの古墳が見つかっていましたが、西側の海岸沿いの斜面での発見は初めてです。佐渡に最も近い角田岬から約１㎞、標高112mの地点にあります。佐渡島を望む好立地にあり、日本海を航行する船から見える角田岬灯台のようなランドマークだったかもしれません。

日本海を北上する船が角田岬沖を過ぎると、
そこに古墳の姿が･･･
（角田岬西の海上からみた古墳：矢印）

角田浜妙光寺山古墳あれこれ

①古墳の規模は県内第３位！

古墳の全長は約49m。同じ新潟市にある古津八幡山古墳（秋葉区、径60mの円墳）、菖蒲塚古墳（西蒲区、全長53mの前方後円墳）に次ぐ第３位の大きさです。それらより古い時期の「越後の王」が埋葬されている可能性があります。

②日本海沿岸では最も北にある前方後円墳。

古墳時代、日本各地に造られた巨大な前方後円墳。その日本海沿岸の北限は同じ西蒲区の菖蒲塚古墳でした。それより北に発見されたこの古墳は、日本海沿岸で最も北にある前方後円墳となります。当時の日本（倭）を支配していたヤマト王権が北に進出する最前線といえるでしょう。

③海に臨む標高112mの高所にあります。

日本海に臨む高いところに造られたこの古墳は、海の交通を意識しているのでしょう。日本海を北上してこの古墳を過ぎると、広い新潟平野に回り込むことができます。ただし、付近にはこの古墳を造った人々が生活した大きな集落遺跡は、今のところ見つかっていません。人々はどこに住んでいた？

④調査はまだまだこれからです。

2019年9月の再発見ののち、2020年4月には地元新聞で紹介されたことで、広く市民に知られるようになりました。その年には墳丘の測量調査を行いましたが、発掘調査は行っていません。発掘調査で土器が見つかれば古墳の年代が明らかになりますし、埋葬施設の存在もわかるでしょう。今後の課題です。

参考文献：文化財保存新潟県協議会･第21回大会資料「前方後円墳新発見！
―角田浜で、頸城平野で、あなたの町で･･･」（2020年11月）

製作：文化財保存新潟県協議会
https://bunsinkyou.web.fc2.com/
（左の二次元バーコードからアクセスできます）
監修：橋本博文（新潟大学名誉教授）

新潟市西蒲区

にいがたし にしかんく

角田浜妙光寺山古墳

かくだはま みょうこうじやま こふん

見学のしおり

佐渡島を望む古墳のイメージ（作成:小林隆幸さん）

【古墳発見のものがたり】

2017年3月、新潟県の角田山麓で山城を探していた山城研究者の岡田建紀さんは、前方後円墳を発見します。その情報は一部の人にしか伝わらなかったのですが、遠くはなれた岡山県の藤原好二さん（倉敷市埋蔵文化財センター職員）が思わぬかたちで「再発見」します。国土地理院がホームページ上で公開している傾斜量図（地表の傾きの量を白黒の濃淡で表現した地図）の観察の結果、「未発見の前方後円墳ではないか？」との情報が新潟県の古墳研究者にもたらされたのです。現地調査の結果、それはまぎれもない前方後円墳でした。こうして、今まで知られなかった古墳が多くの人々に知られるようになったのです。大発見でした！